



○第14回文化祭が行われました。

日本メキシコ学院の2大行事の一つ文化祭が1月19日に開催されました。食べ物の販売がなかったという昨年度の反省から、今年は日本食と和菓子、メキシコ料理が、かまぼこドームで出店され大盛況でした。

日本コースの児童生徒たちは主になかよし広場と、日本コース棟1階で折り紙や習字のワークショップを行いました。小学部1年生による盆踊りは多くの人をひきつけ、一時、なかよし広場が観客で一杯になるほどでした。

驚いたのは、多くのメキシココースの児童生徒や保護者の方が訪れ日本コースの児童生徒の説明を熱心に聞き、日本文化を生き生きと笑顔で体験していた事です。昨年のお客様の入りと比較して、今年の方が確かに多かったと感じた方は私だけではないと思います。

また、プラサ・デ・オノールやアウディトリオでもメキシコダンス・小学部6年生による和太鼓、小学部5年生による尺八演奏が披露され、子供たちは精一杯の演奏をしました。

私はメキシココース小・中学部、高等部も見て回りましたが、どの部もよく研究され、素晴らしい発表でした。3年間見てきましたが、今年度の文化祭が一番バランスも取れており、充実していたと感じました。

○熱い戦い、百人一首大会

1月29日に小学部百人一首大会の団体戦がありました。1月15日に個人戦が行われたばかりだったのですが、子供たちの百人一首カルタ取りに臨む姿勢に圧倒されました。私は会議の関係で小学部低学年しか見ることができなかったのですが、とくかく、上の句を聞いてから下の句を取るまでの反応が早いのです。

特に1年生の児童がすごいです。和歌の内容は難しくてわかっていないようでしたが、ゲーム感覚で覚えていて、上の句を聞くや否や即座に下の句を取れる子もいます。低学年団体の部優勝は、小1のオールスターズ(狩股ソフィア・高谷 翔・中江琳音・中村真帆・森山小都)、高学年団体の部優勝は、小5のスイートポテッピー(坂川颯人・西岡紗彩・疋田琉唯・松田孝太郎)でした。

○交流授業が活性化しています。

昨年末に、春日理事長の提案で、両コースが英・算・音・体・図で交流を行おうという方向が決まり、主に日本コースの先生方がメキシココースの先生方に呼び掛ける形で実現しています。1月28日・29日には、日本コース中学部1年生とメキシココース中学部3年生が、日本の「心の歌」に親しもうという題材で、教材として「赤とんぼ」を使い、2時間連続で交流授業を行いました。指導者は日本コース坂本先生、メキシココースは大西先生(国際教育部)でした。下にメキシココースの生徒たちの感想文を紹介します。今後の交流がとても楽しみです。

- ・落ち着きと同時に、わくわく感を感じ取れる。悲しさが感じ取れる。サビは、昔について話している。
- ・落ち着きがある。「きれい おんがく」。歌詞について考えるのが悲しかった。歌い手は悲しみと共に、楽しみを伝えてくれる。自分の過去と故郷を思い出して、悲しみと喜びを同時に届けてくれる。
- ・この歌は、昔についてだけれども、幻のように歌っている。そして昔のことだとわかるように印象付けている。作者は歌っているだけでなく、語っているように思える。

○帰任者が決まりました。

文部科学省の在外教育施設派遣教員制度の赴任期間は原則2年です。この度、2年あるいは3年の任期満了で本帰国する先生方を発表します。

橋本恵子先生、田中 拓先生、桑山賢司先生、菅田真治先生、吉田一成先生、永田博巳校長の6名です。あと残り少なくなりましたが、最後まで職務を全うする所存です。